



みどりの風

平成25年12月2日発行
校報 第503号
(みどりの風 第46号)
練馬区立関町北小学校

言葉の力

校長 大野 泰弘

童謡「この道」、「ペチカ」、「ゆりかごの唄」等の作詞で有名な詩人、北原白秋は次のような詩も作っています。

ひんがしを
北原 白秋

ひんがしをで けんかして
ひんがしをで なかなおり
ひんがしをで 頭が下がり
ひんがしをで 心が痛む
ひんがしをで 楽しく笑い
ひんがしをで 泣かされる
ひんがしをそれぞれに
ひんがしを 持っている
きれいなよばばはきれいな心
やれつこよばば やれつこ心
ひんがしをを 大切に
ひんがしをを 美しく

この詩にあるように、声に表れる一つ一つの言葉は、その人の心のあり様を映し出す鏡のようなものです。

私は、これからの21世紀を生き抜いていかなければならない子どもたちに必要なことの一つとして、豊かな心の育成につながる「言葉の力」を高めていくことがあると考えています。その「言葉の力」とは、詭弁を弄したり、上辺だけの美辞麗句を並べたりするのではなく、自らの思いや考えをしっかりと、相手の人格や立場を尊重したうえで、他者との交流を通して、新しい考えに辿り着き、かかわり合うことの意義や価値を再発見することのできる力であると思います。

今年、OECD(経済協力開発機構)の担当者が、21世紀の子どもたちに求められる力として、相互作用的に道具(言語・情報・知識など)を用いる力、異質な集団の中でよりよく交流する力、自律的に活動する力の3つの力をキーコンピテンシーとして提言しました。これらは、OECDが実施するPISA調査(生徒の学習到達度調査)の観点と照らし合わせると、「情報の取り出し」、「テキストの解釈」、「熟考・評価」という項目にもつながっていると考えられます。

高度情報化社会、知識基盤社会と言われる中、社会的にも大きな変化が予想される状況で、正解のない未知の課題に直面したときに、その解決策を考え、的確に判断しながら、それを克服していく一つの鍵となるものが確かな「言葉の力」である、と私は考えています。

そこで、本校では、昨年度より、東京都教育委員会より言語能力向上推進校の指定を受け、次の3つの事項を柱として、本事業を推進してきました。

「共に学び、共に伸びる子の育成」を研究主題とする国語科の授業改善

「宝島図書館」を中心とする読書活動の充実

外部講師の招聘による体験的な学習の推進

今月、19日には、この中の国語科の授業改善について、中間研究発表会を開催いたします。今年度は、国語科における説明的文章の指導について研究を進めてまいりました。この研究を通して、子どもたち一人一人が、論理的な思考力、判断力、表現力などを身に付けていくことを願っています。「言葉の力」を高めることが、豊かな心の育成につながり、さらには、周りの人々の役に立とうとする社会貢献意欲やボランティア精神にまで高揚していくことも期待しています。

今回の中間研究発表会を一里塚として、今後も本事業の推進に一層尽力してまいりますので、引き続き、皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。